

「旅の図書館」蔵書の紹介

2

公益財団法人日本交通公社 旅の図書館副館長・主任研究員

大隅 一志

「旅の図書館」は、旅行・観光に関する図書・資料だけを集める国内でも数少ない専門図書館です。蔵書の収蔵方針や資料分類の考え方、蔵書の概要および特徴的な図書・資料についてご紹介します。

① 蔵書の収蔵方針と分類方法

① 収蔵方針

1978年（昭和53年）の開設以来、「旅の図書館」では、世界各国の旅行ガイドブックから観光研究の専門書・学術書まで、多様な利用者層に応えられる図書・資料を幅広く収集してきました。

新たな図書館では、学術研究機関である当財団本部との一体化を機

に、これまで調査研究活動の中で収集してきた資料を統合し、より観光の研究者や実務者向けの専門資料の充実を図り公開をすることとし、以下のような収蔵方針の見直しを行いました。

【収蔵方針見直しの方向】

- ・観光の研究・実務の参考に資する
— 図書・資料を重点的に収蔵する。
- 観光・旅行に関する文献・研究書・実務書、調査研究報告書、観光統計資料、学術誌・研究雑誌 など（当財団の刊行物・出版物、公開可能な調査研究報告書などを含む）
- ・旅行および観光地に関する資料

は、調査研究に必要な最新情報を得ることを目的に厳選して収集する。古い資料については、過去をさかのぼった調査研究のための文献、アーカイブ資料としての価値を考慮し資料を選別し、長期的に収蔵する。

— ガイドブック、地図・パンフレット、観光地の旅行案内・観光地事情、時刻表、機内誌、旅行雑誌 など

② 図書・資料の分類

移転前までの「旅の図書館」における図書・資料の分類では、公共図書館や大学図書館などが一般的に用いる日本十進分類法（NDC）を用

図1 収蔵資料の3つの分類方法

T分類（観光研究資料） 独自分類		F分類（財団コレクション資料） 独自分類		NDC分類（基礎文献）	
【対象】観光研究分野の専門図書・資料		【対象】財団関係資料及び特徴的な収蔵資料		【対象】観光・旅行に関わる基礎的文献	
T0	観光原論・概論	F0	財団（JTBF）関係資料	0	総記
T1	観光者・観光活動（Ⅰ）	F1	JTB関係資料	1	哲学
T2	観光者・観光活動（Ⅱ）	F2	統計・白書	2	歴史
T3	観光地・観光資源（Ⅰ）	F3	ガイドブック	3	社会科学
T4	観光地・観光資源（Ⅱ）	F4	旅行商品/パンフレット	4	自然科学
T5	観光産業	F5	時刻表・機内誌	5	技術・工学
T6	観光計画・開発	F6	古書・貴重資料	6	産業
T7	観光政策	F7	映像・デジタル資料	7	芸術・美術
T8	観光経営・経済	F8		8	言語
T9	観光と社会・文化・環境	F9	保存資料	9	文学

*分類名については、広義の意味での「観光」を前提とする

いってきました。リニューアル後の新たな図書館では、蔵書の特徴を踏まえつつ、より観光の専門性に対応させるため、以下のような2つの独自分類を含む3つの分類方法を用いて管理しています(図1)。

① T (Tourism) 分類：観光研究資料

② F (Foundation) 分類：財団コレクション資料(当財団が所蔵する特徴的な資料)

③ NDC分類：観光・旅行に関する基礎文献

2つの独自分類の詳細は、(2)以降の主な資料の分類・種別の蔵書紹介の中で解説します。

③ 蔵書数

「旅の図書館」の蔵書数は、3つの分類別に見ると、

・ T分類(観光研究資料)：約8000冊

・ F分類(財団コレクション資料)：約2万7000冊(保存資料を含む)

・ NDC分類(観光・旅行に関わる基礎文献)：約1万3000冊

となり、全体では雑誌などを含めて

約6万冊の蔵書規模となります。これら資料の分類別・種別の蔵書数の内訳は表1の通りです。以下、資料の分類・種別ごとに蔵書の概要を紹介します。

表1 資料の分類別・種別蔵書数(2016年9月現在)

種別	蔵書数(冊数)	備考	
観光研究資料(T分類)	8,000	地域研究資料として配架分を含む	
財団コレクション資料(F分類)	財団(JTBF)関係資料	4,500	27,000
	JTB関係資料	700	
	統計・白書	3,000	
	ガイドブック	6,000	
	旅行商品パンフレット	200	
	時刻表・機内誌	5,000	
	古書・貴重資料	2,300	
保存資料	5,000		
基礎文献(NDC分類)	13,000	雑誌バックナンバー合本を含む	

(注) 各分類蔵書には一部非公開を含む

(2) 観光研究資料(T分類)

観光学は、単一の学問ではなく、歴史学や地理学、社会学、人類学、心理学、経営学、経済学、統計学、都市計画学など、あらゆる既存の学問領域を使って観光の諸現象を分析・研究するもので、極めて学際的な性格を持つており、観光に関する研究図書もさまざまな領域に及んでいます。

こうした多岐にわたる観光研究資料を分類する場合、一般的に用いられる日本十進分類法(NDC)では、第一次区分「6(産業)」↓第二次区分「68(運輸・交通)」↓第三次区分「689(観光事業)」と、第三次区分の一つに集約されてしまい、詳細な分類には適用できません。したがって、観光研究資料の分類には、それに対応した分類が必要ですが、我が国ではまだ観光学の体系が十分に確立されていないことから、当財団では約1年をかけた十進分類法を用いた観光研究資料に対する独自分類「T(Tourism)分類」を構築しました。

T分類では、T0~T9までの第

一次区分(大分類)のもと、さらに第二次区分(中分類)を行い、より詳細な分類が必要なものについては第三次区分まで設定しています(表2)。今後は、運用を図りながら、必要に応じて適宜見直しを行っていく予定です。

現在、これらT分類によって登録されている観光研究資料は約8000冊。国内外の観光研究の専門書をはじめ、官公庁や当財団を含む研究機関などの調査研究報告書などがあります。以下、第一次区分別に、主な図書・資料の概要を紹介します。

■ 観光原論・概論(T0)

観光学に関する原論・概論(観光用語や事典などを含む)、観光・余暇・レジャーの概念や本質に関するもの、国内外の旅・観光の歴史や文芸(紀行・文学など)、観光の理論など、観光学の基本となる資料群で構成しています。

■ 観光者・観光活動(T1・T2)

観光者(旅行者)の視点から分類したもので、「T1(観光者・観光活動(I))」では観光者の行動・

表2 観光研究資料 (T分類) の体系

第一次区分	第二次区分	備考 (T番号は第三次区分)
T0. 観光原論・概論	T00. 概論・総論	観光論・観光学全般、観光用語 など
	T01. 観光の概念	観光の概念・定義・意義、旅、余暇・レジャー など
	T02. 観光の歴史	T020. 概論・総論 T021. 観光の日本史 T022. 観光の世界史
	T03. 観光と文芸	観光に関わる文学・紀行・作家 など
	T04. 観光理論・研究	観光理論、観光研究組織 など
T1. 観光者・観光活動 (I)	T09. 観光原論・概論その他	
	T10. 概論・総論	観光者の分類・特性、観光(旅行)の形態 など
	T11. 観光者の行動・心理	観光発生論、観光欲求・観光動機、観光行動論 など
	T12. 観光活動全般	観光対象と活動の分類(種類)、観光活動の動向 など
	T13. 自然・スポーツ・レクリエーション	登山、海水浴、スキー、キャンプ など
	T14. 歴史・文化	文化と観光、社寺巡り、巡礼(遍路)、宗教とツーリズム、祭り、芸術、サブカルチャー など
	T15. 遊戯・娯楽・趣味	遊び、遊園地、ゲーム、ギャンブル など
	T16. 飲食・買い物	フードツーリズム、買い物・ショッピング など
	T19. 観光活動その他	健康と観光(ヘルズツーリズム)、マルチハビテーション など
T2. 観光者・観光活動 (II)	T20. 旅行者動向(概論・総論)	旅行者動向全般、余暇需要 など
	T21. 日本人の旅行(国内旅行)	日本人の国内旅行市場動向 など
	T22. 日本人の旅行(海外旅行)	日本人の海外旅行市場動向 など
	T23. 訪日外国人の旅行(インバウンド)	訪日外国人旅行市場動向、誘客・インバウンドの戦略 など
	T24. 国際的な旅行者動向	
T3. 観光地・観光資源 (I)	T25. 海外(各国)の旅行者動向	
	T29. 観光者・観光活動その他	一般的な消費者(市場)動向 など
	T30. 概論・総論	観光地理学、観光地の分類・特性、観光地の成立・発展形態 など
	T31. 自然観光地	景勝地、自然公園、エコツーリズム、ジオパーク、自然観光地の保護と開発 など
	T32. 歴史観光地	歴史・町並み観光地、歴史的町並みの保存と再生 など
	T33. 温泉観光地	温泉学、温泉地の歴史、温泉地の再生・活性化 など
	T34. 島嶼観光地	島嶼地域の課題、離島と観光振興 など
	T35. 都市観光地	都市の魅力、都市観光・アーバンツーリズム、都市開発・市街地の活性化 など
	T36. 山・漁村・過疎地域	グリーンツーリズム、農家民宿、里地・里山の保全、農村景観、農村・過疎地域の活性化 など
T4. 観光地・観光資源 (II)	T37. リゾート	パクス、リゾートの概念、保養地、リゾート法、リゾート計画論、リゾート開発 など
	T40. 観光資源論	観光資源の概念・分類、観光資源評価(手法)、観光資源の保護と開発 など
	T41. 世界遺産	世界遺産と観光、世界遺産登録地の動向・課題 など
	T42. 産業遺産・産業観光	産業遺産と観光(ヘリテージツーリズム)、産業観光 など
	T43. 認定地域その他	世界農業遺産、無形文化遺産、日本遺産 など
	T44. 観光インフラ(全般)	社会基盤全般 など
	T45. 観光インフラ(土木・建築)	道路、河川、運河、橋梁、ダム、建築 など
	T46. 観光インフラ(公園緑地・環境)	公園、都市緑地、水辺空間 など
	T47. 観光インフラ(情報)	情報技術、情報媒体、観光案内所、観光標識 など
T5. 観光産業	T49. 観光地・観光資源その他	
	T50. 概論・総論	観光産業全般、観光業界の動向、観光事業論・観光ビジネス など
	T51. 旅行業	旅行業の歴史、旅行ビジネス、旅行業の動向 など
	T52. 運輸(交通)業	T520. 概論・総論 T521. 航空業 T522. 鉄道業 T523. 船舶・海運業 T524. 自動車産業 T529. その他
	T53. 宿泊業	宿泊業の諸形態、宿泊業の歴史、旅館業法、宿泊施設の計画・開発・経営 など
	T54. 飲食・土産物業	T540. 概論・総論 T541. 飲食業 T542. 土産物業
	T55. MICE産業	ミーティング・インセンティブ産業、イベント産業、コンベンション産業、展示会産業 など
	T56. 観光レクリエーション事業	T560. 概論・総論 T561. 観光施設 T562. 商業施設 T563. スポーツ&レジャー(全般) T564. ウィンタースポーツ T565. アウトドア T566. エンターテインメント T567. キャンブル T569. その他
	T57. ガイド業	通訳ガイド、地域ガイド など
T6. 観光計画・開発	T59. 観光産業その他	
	T60. 概論・総論	観光計画全般、観光開発と計画 など
	T61. 観光調査	観光調査、観光地診断・観光地評価、観光の需要予測 など
	T62. 観光地計画	観光計画・観光地づくりの手法、広域・都道府県・市町村の観光計画 など
	T63. 観光レクリエーション施設計画	観光レクリエーション施設・観光交流拠点の計画 など
	T64. 観光交通計画	交通需要調査、観光交通計画、観光ルート開発、観光街道 など
	T65. 観光地の景観計画	景観論・風景論、観光地の景観・風景計画、景観とまちづくり など
	T66. 観光開発	観光開発史、観光開発の手法、観光開発と保護 など
	T67. 観光地づくり	観光地の活性化・再生、着地型観光、観光まちづくり など
T7. 観光政策	T69. 観光計画・開発その他	
	T70. 概論・総論	観光政策全般
	T71. 日本の観光政策	T710. 概論・総論 T711. 観光政策(国土交通省・観光庁) T712. 観光政策(総務省) T713. 観光政策(経済産業省) T714. 観光政策(文部科学省) T715. 観光政策(環境省) T716. 観光政策(農林水産省) T719. 観光政策(その他)
	T72. 都道府県・市町村の観光行政	市町村の観光施策、ディスティネーションキャンペーン(DC)、地域間交流 など
	T73. 国際観光政策	国際観光の問題、国際レベルの観光政策、国際観光協定・条約、国連開発、国際協力 など
	T74. 海外(各国)の観光政策	各国の観光政策・諸制度など 発展途上国の観光政策 など
	T75. 国際交流	国際観光交流 など
	T79. 観光政策その他	
	T8. 観光経営・経済	T80. 概論・総論
T81. 観光経営(全般)		観光経営(観光ビジネス)全般 など
T82. 観光マーケティング		マーケティング論、ホスピタリティとマーケティング、観光(誘客)宣伝・PR、観光のブランディング など
T83. 観光事業の経営		サービスのマネジメント、観光事業の労務・財務 など
T84. 観光人材・組織		T840. 総論・概論 T841. 観光人材の育成 T842. 観光組織 T849. その他
T85. 観光地経営		観光地経営論、観光地マネジメントの手法、観光地ブランディング、観光財源、官民協働 など
T86. 観光経済(全般)		観光産業・観光ビジネスと経済、国際旅行収支、雇用と所得、観光金融・観光投資 など
T87. 観光統計・経済波及効果		観光統計手法、観光消費額、観光の経済波及効果 など
T89. 観光経営・経済その他		
T9. 観光と社会・文化・環境	T90. 概論・総論	地域社会全般 など
	T91. 観光と地域社会・文化	観光人類学・観光民俗学(風俗・風習、民俗芸能、伝統産業、郷土料理など)、地域(地元)学、エコミュージアム など
	T92. ユニバーサルツーリズム	障害者・高齢者と旅行、観光のバリアフリー、ユニバーサルツーリズム など
	T93. 観光とボランティア	観光とボランティア、ボランティア・ツーリズム、社会貢献活動、メセナ など
	T94. 災害と観光復興	震災と観光復興、ダークツーリズム など
T95. 観光と環境	持続可能な観光、環境負荷の低減、環境指標、自然再生エネルギー など	
T99. 観光と社会・文化・環境その他		

心理や各種観光活動、「T2(観光者・観光活動(Ⅱ))」では日本人の国内旅行・海外旅行、訪日外国人の旅行(インバウンド)、海外(各国)の旅行者動向など、主に旅行市場の動向に関するものを扱っています。

なお、T2では、旅行市場の動向分析などを行った研究資料を主としており、統計的なデータや資料については、「F分類(F2:統計・白書)」で扱っています。

■観光地・観光資源(Ⅲ・T3・T4)

観光地・観光資源に関する資料について、2つの第一次区分を用いて分類しています。「T3(観光地・観光資源(Ⅰ))」では、特に観光地理学的な視点から自然観光地、歴史観光地、温泉地、島嶼、都市、農山漁村・過疎地域などの観光地タイプに分類し、リゾートを加えました。ここでは、各観光地タイプの発展過程や観光地としての諸課題、観光地づくりなどに関する図書・資料を集め、自然資源、歴史・文化資源、温泉資源といった観光資源についても、関係の深い観光地タイプの中で扱っています。

また、エコツーリズム、アーバンツーリズム(都市観光)、グリーンツーリズムといった観光の潮流として登場してきた各種テーマのツーリズムについても、関係の深い観光地タイプの中を含めています。

「T4(観光地・観光資源(Ⅱ))」では、観光資源論の他、世界遺産や産業遺産などの認定地域、および土木・建築、公園緑地・環境、情報などの観光基盤(インフラ)に関するものを扱っています。

■観光産業(Ⅳ・T5)

旅行業、運輸(交通)業、宿泊業、飲食・土産物業、MICE産業、観光レクリエーション事業、ガイド業などの観光産業の業種別に、各産業の特性や歴史、業界動向、関連制度、事業・ビジネスなどに関するものを扱っており、最も多くの蔵書があります。

このうち、運輸(交通)業、飲食・土産物業、観光レクリエーション事業については、第三次区分により詳細分類を行っています。

■観光計画・開発(Ⅴ・T6)

観光の調査・計画・開発に関する資料群で、当財団が長年関わってきた

観光地の調査・計画や観光地づくりなど調査研究活動の中で収集してきた資料をはじめ、観光交通計画や景観計画に関する資料があります。

「観光地計画(T62)」には、観光計画の手法や計画論に関する資料の他、都道府県や広域、市町村などが策定した観光振興計画資料(報告書)もあります。「観光地づくり(T67)」には、観光地の活性化や観光まちづくりなどに関するさまざまな施策や取り組み事例などに関する資料も多く、観光地の実務の参考としてご利用いただけます。

■観光政策(Ⅵ・T7)

日本の観光政策、都道府県・市町村の観光行政、国際レベルや海外各国の観光政策などに関する資料を扱っています。

特に日本の観光政策については、我が国の観光の基本的な政策に関する各種資料を集めるとともに、省庁別に政策や調査報告書などを分類し、各省庁の観光に関する施策の動きが分かるようにしています。

■観光経営・経済(Ⅶ・T8)

観光(観光事業)の経営や経済

に関する資料を扱っています。

このうち、観光経営については、マーケティングや観光事業・観光ビジネスの経営、観光人材・組織などにより分類しています。また観光地を対象としたマネジメントやマーケティング手法、地域のブランディングなどに関する資料は、「観光地経営(T85)」として扱っています。

観光経済に関しては、観光経済全般と観光統計・経済波及効果に関するものに区別して分類しています。

■観光と社会・文化・環境(Ⅷ・T9)

ここでは観光と関わる社会の諸事象として、観光と地域社会・文化、ユニバーサルツーリズム、ボランティア、災害と観光復興、環境などを扱っています。

「観光と地域社会・文化(T91)」は、観光人類学・民俗学的な視点から、風俗・風習や祭り・伝統行事などを通した観光と地域社会・文化との関わりについての資料を集めています。

観光研究資料の独自分類を導入したことは、資料の利用管理を容易にするだけでなく、観光研究の動向を捉える上でも役立っています。例え

図3 T9. 観光と社会・文化・環境 (2011-2015年)

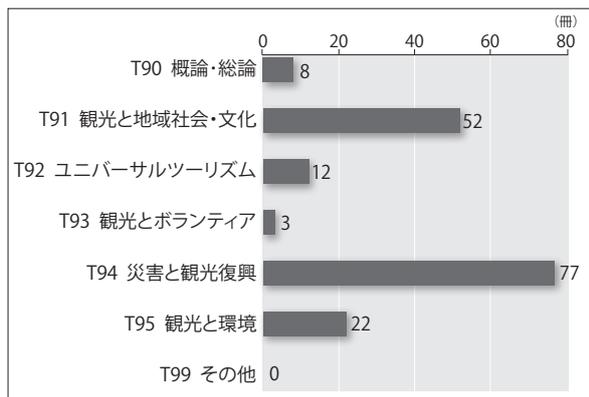
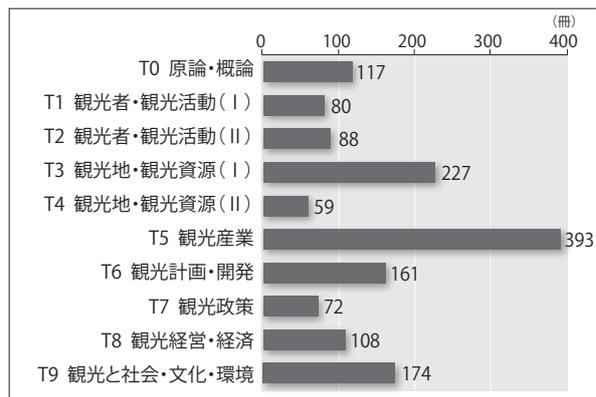


図2 第一次区分受入数 (2011-2015年)



T分類による配架資料

ば「旅の図書館」では2011年(平成23年)から2015年(平成27年)までの最近5年間で約1500冊の図書を受け入れています。このうち受入図書数が多いのは「T5. (観光産業)」約400冊、「T3. (観光地・観光資源(I))」約230冊、「T9. (観光と社会・文化・環境)」約170冊などとなっております。どのような観光研究図書が多く出版されているかが年次別に簡単に把握することができるとなりました(図2)。さらに第二次区分で見ると、例えば「T9. (観光と社会・文化・環境)」では、2011年の東日本大震災を機にして「災害と観光復興(T94)」に関する図書が最も多くなっていることが分かります(図3)。このように、分類をより詳細に、時系列的に見ていくことで、さまざまなテーマにつ



地域研究資料の例(北海道)

いて、長いスパンでその趨勢を捉えることも可能になりました。

(3) 地域研究資料

地域研究資料は、国内・海外の個別の国や地域・観光地に関する図書や資料で、観光研究資料(T分類)と地域を理解するための基礎文献(NDC分類)とで構成しています。

これらの資料には、国立公園をはじめとする自然観光地や世界遺産地域、温泉地、都市や農山漁村地

(4) 財団コレクション資料 (F分類)

当財団の刊行物・出版物や調査研究報告書、古書・稀覯書(きんがんしょ)など、当財団の所蔵する特徴的な資料を集め、「F (Foundation) 分類」として分類・整理しています(表3)。F分類には、主に次のような資料があります。

■財団(JTF)関係資料(F0)
当財団の社史や刊行物・出版物、調査研究報告書などです。

域などの観光地づくりや地域の活性化など、当財団の調査研究活動を通して収集してきた地域資料や海外各国の調査資料などがあります。

また、これまで「旅の図書館」が多くの利用者にお役立ていただいたガイドブックや地域の歴史・文化、地誌、観光地事情などに関する図書資料も厳選して収蔵し、地域を深く理解いただけるようにしています。

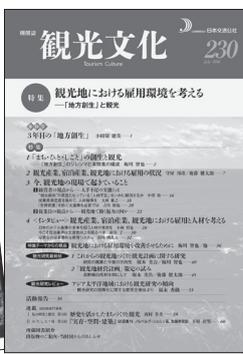
観光地の研究だけでなく、観光地づくりや地域活性化への取り組みを行う他地域にとっても参考にしていただけます。

表3 財団コレクション資料 (F分類) の体系

第一次区分	第二次区分	分類に含まれる内容 (キーワード例)
F0. 財団 (JTBF) 関係資料	F00. 財団 (JTBF) 経営資料	社史、経営関係資料
	F01. 機関誌・定期刊行物	財団刊行物 (「観光文化」「旅行年報」など)
	F02. 財団出版物	財団出版物 (「美しき日本」「観光読本」など)
	F03. 外部出版物 (財団関連)	財団研究員が執筆に関わった外部出版物
	F07. 財団主要調査資料	財団の主要調査資料
	F08. 調査研究報告書	自主研究報告書・受託調査報告書
	F09. 保存資料	
	F10. 経営資料	社史 (グループ会社含む)、経営関係資料
	F11. 営業資料	営業関係資料 (JTBニュースリリースなど)
F1. JTB関係資料	F18. JTB関係資料 (その他)	
	F19. 保存資料	
	F20. 観光統計全般	国内・海外の観光に関する統計・白書・年鑑
	F21. 統計 (旅行業)	旅行業に関する統計・白書・年鑑
F2. 統計・白書	F22. 統計 (運輸・交通)	運輸・交通に関する統計・白書・年鑑
	F23. 統計 (宿泊)	宿泊に関する統計・白書・年鑑
	F24. 統計 (観光施設)	スポーツ施設を含む
	F25. 都道府県観光統計	都道府県別の観光入込統計
	F29. 統計 (その他)	社会統計 など
	F30. ガイドブック (テーマ別)	テーマ別ガイドブック
	F31. ガイドブック (国内)	国内ガイドブック (「るるぶ情報版」など)
F3. ガイドブック	F32. ガイドブック (ジャパン)	外国人向けの日本紹介ガイドブック
	F33. ガイドブック (海外)	海外ガイドブック: 「ロンリープラネット」「地球の歩き方」など
	F34. 観光地パンフレット・地図	主要観光地のパンフレット、地図
	F39. ガイドブック (その他)	
F4. 旅行商品パンフレット	旅行商品パンフレット (JTB「エース」「ルック」など)	
F5. 時刻表・機内誌	F50. 時刻表	時刻表 (バックナンバー)
	F51. 機内誌	主要航空会社機内誌 (バックナンバー)
F6. 古書・貴重資料	F60. 古書・稀観書	観光産業・政策・観光事業、ガイドブックなど
	F61. ツーリスト・旅	「ツーリスト」「旅」原書・合本
	F69. 保存資料	
F7. 映像・デジタル資料	F70. 映像資料	映像資料、デジタルアーカイブ資料 など
	F71. 録音資料	
	F72. 写真	
	F79. その他デジタル資料	
F8.		
F9. 保存資料		



温泉まちづくり研究会
「温泉まちづくり」



機関誌「観光文化」

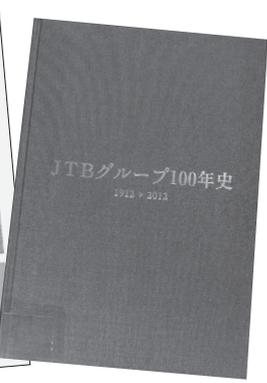


「旅行年報」

当機関誌「観光文化」は、1976年(昭和51年)12月の創刊以来、毎年、各時代の観光のトピックを特集テーマに据え、各テーマに造詣の深い有識者の方々に執筆依頼し、多様で深奥な知見が凝縮された冊子として評価をいただいていたもので、本号で231号を数えます。215号(2012年10月発行)からは、観光研究分野における研究活



旅行業の歴史が分かるJTB関係資料



動の発表の場として内容を刷新し、研究員による執筆と外部専門家の方々からの寄稿による観光文化振興のための問題提起、情報提供、交流の場となっています。また、「旅行年報」(1981年〔昭和56年〕から刊行)は、前年度の観光を取り巻く旅行市場や観光産業、観光地、観光政策などに関する各種統計資料および当財団独自調査の結果をもとに、およそ一年間の動向を概観するものです。各年の旅行・観光を取り巻く動きを捉えるとともに、経年で見えていただくことで、時代の変化を読み解くこともでき、旅行・観

光の動向分析やアーカイブ資料としても活用いただけます。2014年度(平成26年度)版からは、旅行者の実態や意識調査(当財団の独自調査)やアジア8地域・訪日外国人旅行者の意向調査(日本政策投資銀行との共同調査)などの結果も加え、内容の充実を図っています。

その他、当財団が50年余りに及ぶ各種調査研究活動の中で成果として取りまとめた報告書も数多く、自主研究を中心に公開可能な調査報告書については、観光の研究や観光政策・観光地づくりなどの実践の場での参考として活用いただけるよう公開しています。

当財団の代表的な出版物については、「特集3」公益財団法人日本交通公社がお薦めする「二度は読みたい観光研究書&実務書100冊」の中で併せてご紹介しています。

■JT B関係資料(F1)

当財団を設立母体とする旅行会社ジェイティービーの社史や各種発行物、ニュース資料などがあります。我が国の旅行業の歴史や歩みなどを知る上で参考になります。

■統計・白書(F2)

国内外の主要な観光統計をはじめ、旅行業、運輸・交通、宿泊、観光施設など観光に関連する各種統計



国内外の観光に関する統計資料の例

表4 主要な観光関連統計資料

国内の観光統計全般	<ul style="list-style-type: none"> 『観光白書』国土交通省・観光庁 『観光の実態と志向』(公財)日本観光振興協会 『大都市住民の観光レクリエーション』(公社)日本観光振興協会 『レジャー白書』(公財)日本生産性本部
日本人の海外旅行／訪日外国人旅行	<ul style="list-style-type: none"> 『出入国管理統計』法務省大臣官房司法法制部 『日本人と国際線の旅 海外旅行者調査 ON JAPANESE OVERSEAS AIR TRAVELERS』毎日新聞社 『JNTO訪日外客訪問地調査』日本政府観光局 『日本の国際観光統計』日本政府観光局 『JNTO国際観光白書』日本政府観光局 『JNTO訪日旅行誘致ハンドブック』日本政府観光局
特殊マーケットの旅行	<ul style="list-style-type: none"> 『修学旅行のすべて』・『教育旅行白書』(公財)日本修学旅行協会 『ロングステイ調査統計』ロングステイ財団 『ウインターレジャー白書』ウインターレジャーリーグ
国際的な観光動向	<ul style="list-style-type: none"> 『COMPENDIUM OF TOURISM STATISTICS』UNWTO 『YEARBOOK OF TOURISM STATISTICS』UNWTO 『世界観光統計資料集』アジア太平洋観光交流センター
旅行業	<ul style="list-style-type: none"> 『数字が語る旅行業』(一社)日本旅行業協会
運輸・交通	<ul style="list-style-type: none"> 『交通年鑑』・『新交通年鑑』交通協力会・交通新聞社 『鉄道要覧』(株)電気車研究会・鉄道図書刊行会 『鉄道統計年報』国土交通省鉄道局 『航空輸送統計年報』国土交通省 『航空統計要覧』(一財)日本航空協会
宿泊	<ul style="list-style-type: none"> 『宿泊旅行統計調査』観光庁
観光施設	<ul style="list-style-type: none"> 『特定サービス産業実態調査』経済産業省 『レジャーランド&レクパーク総覧』総合ユニコム(株)
都道府県の観光統計	<ul style="list-style-type: none"> 『全国観光動向 都道府県別観光地入込客統計』(公社)日本観光振興協会 各都道府県が独自に取りまとめている観光入込統計(一部非公開)
その他	<ul style="list-style-type: none"> 国民の生活や観光に関する世論調査等

(備考) 出版社は現在の出版社名で記載しています

計・白書・年鑑約3000冊を揃えています。各分野別の主な統計資料は、表4の通りです。
我が国では、継続的にデータを捉えることのできる観光統計が少ないことが課題です。『観光白書』『観光の実態と志向』『大都市住民の観光レクリエーション』『レジャー白書』などは30〜50年継続して刊行されており、長期的なスパンで観光の政

策の動きや統計データを捉える貴重な資料と言えます。
また、当財団では、調査研究活動の一環で、各都道府県が独自に取りまとめている観光統計資料についても収集してきており、他にはない統計資料の一つです。旅の図書館では、これら資料のうち公開可能な資料をご覧くださいことができます。

■ガイドブック〈F3〉

ガイドブックは、「旅の図書館」の特徴的な蔵書の一つです。

近年のガイドブックについては、国内では『るるぶ情報版』（JTB）、海外では『ロンリープラネット』『地球の歩き方』などに限定して収蔵しています。『るるぶ情報版』はおおむね2000年以降の全てを収蔵しており、『ロンリープラネット』『地球の歩き方』は5年ごとに保存しています。これらのガイドブックは、最新の旅行情報源としてだけでなく、掲載情報（テーマ、キーワード、写真など）から観光地や観光の変化を捉えるなど観光研究のアーカイブ資料としても活用いただけます。

また外国人向けに日本を紹介するガイドブックについては、「ガイドブック（ジャパン）」（F32）として分類し配架しており、インバウンドを研究する上でも参考にさせていただきます。

なお、戦前の国内外のガイドブックも数多く所蔵しており、特に戦前のジャパン・ツーリスト・ビューローの時代のガイドブックなどからは、

ガイドブックの歴史や変遷を見ることができます（古書・貴重資料〈F6〉参照）。



ガイドブックの例

■旅行商品パンフレット〈F4〉

ジェイティービーの代表的旅行商品『エースJTB（国内）』『ルックJTB（海外）』について、1990年代以降のツアーパンフレットを取

り揃えています。時代とともに変化する旅行テーマや旅行スタイル、観光地の変化などが、旅行商品を通して見ることができます。



■時刻表・機内誌〈F5〉

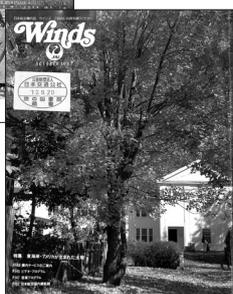
時刻表も特徴的な蔵書の一つです。最も古い時刻表は1872年（明治5年）『品川横浜館鉄道列車出発時刻および賃金表』。ジェイティービーが発行する時刻表は1973年（昭和48年）1月号以降は全て所蔵しています。古い時刻表は閉架資料で、申請によって閲覧いただけます。

機内誌については、JAL、ANA、エールフランスなど国内および日本に就航している海外航空会社より寄贈いただいている機内誌（約40誌）を取り揃えています。

海外航空会社の機内誌の日本紹介記事などからは、外国人旅行者に日本がどのように紹介されているかを知る上で参考になり、インバウン



時刻表



機内誌

ドの研究にも役立ちます。

■古書・貴重資料〈F6〉

【古書・稀観書】

主に戦前（おおむね1940年代以前）を中心にした観光に関する貴重な文献コレクション約2300冊を所蔵しています。我が国で最初の外客誘致・斡旋機関として発足したジャパン・ツーリスト・ビューロー（当財団およびジェイティービーの前身）の生みの親である木下淑夫氏が収集した国内外の貴重な資料（木下コレクション）約90冊をはじめ、1880年代から1940年代の文献からは、戦前の我が国の観光産業やインバウンドをはじめとした観光政策、観光事業などの動きが分かります（表5）。

古書・稀観書は閉架資料のため、申請によって閲覧いただけます。

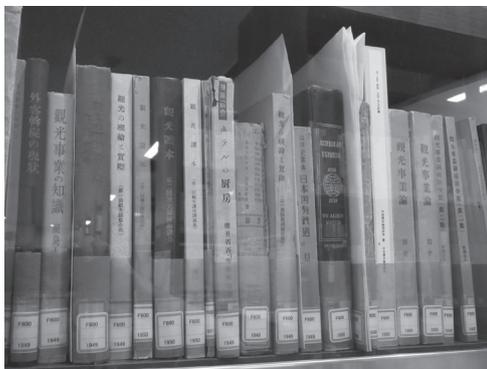
【「ツーリスト」「旅」】

1913年（大正2年）に創刊し、1942年（昭和17年）まで刊行された「ツーリスト」(Tourist)は、ジャパン・ツーリスト・ビューローの雑誌で、邦文・英文併記の特徴を持ち、

表5 古書・稀観書の概要

分類	蔵書の概要
F600	観光産業・政策・観光事業 観光産業、観光政策、観光事業、観光論 [蔵書例] 『国際観光』『国際観光情報』など
F601	地誌・観光地事情 地理、地誌、風俗風習、地域の全般的な紹介(社会情勢、生活) [蔵書例] 『日本名勝地誌』など
F602	ガイドブック・旅行案内 ガイドブック、観光地案内、旅行案内、時刻表 [蔵書例] 『Baedker's Handbook』『Cook's Traveller's Handbook』『日本案内記』『鐵道旅行案内』『外国旅行案内』など
F603	地図・パンフレット 地図、パンフレットなど
F604	旅行記・エッセイ 紀行、旅行記、エッセイ、旅行雑誌など
F605	文化・芸術 文化、芸術 [蔵書例] 『Tourist Library』など
F606	その他

(備考) 分類はF分類 (F6) を第三次区分したもの



古書・稀観書

戦前のインバウンドに対する我が国の取り組みの動きが分かる貴重な資料の一つです。
また「旅」は、1924年（大正13年）に発刊され、日本で最も長く続いた旅行雑誌で、我が国の観光の時代変化をうかがうことができます。
これら2誌は、創刊号から、前者は終刊まで、また後者は2004年（平成16年）1月号（924号）まで図書館内で「デジタルコレクション」として閲覧することができます。



ギャラリーに展示中の古書

「観光イメージを記憶する

印刷メディア」

東京国立近代美術館 主任研究員 木田 拓也

戦前期の日本の観光ポスターに焦点を当てた展覧会「ようこそ日本へ」の開催にあたって、東京駅前

にあった「旅の図書館」(当時)に連日のように通っていたのはちょうど一年ほど前のことになる。移転作業のために「旅の図書館」が間もなく一時休館するというタイミングだったため、やや焦りを感じながらも、戦前期の貴重な資料を次々と書庫から出していただき、その蔵書を手がかりとしてかつての日本の観光イメージの展開を追跡した。

戦前期の観光キャンペーンのために制作された印刷メディアは日本のデザイン史のなかで重要な位置を占めている。というのも、昨今と同じように、一九三〇年代もまた「観光立国」をめざし、いわば国策として観光キャンペーンが

展開され、外貨獲得という大義のために観光宣伝には才能豊かなデザイナーが起用されたからだ。

戦前期の対外宣伝誌としては河野鷹思や山名文夫が表紙を手がけたグラフィ誌『NIPPON』(一九三四年創刊)が有名だが、観光関係では、例えば、ジャパン・ツーリスト・ビューローが発行した『ツーリスト』(一九一三年創刊)の表紙は三越や地下鉄のポスターで知られる杉浦非水によるものだし、国際観光局が発行した『トラベル・イン・ジャパン』(一九三五年創刊)の表紙は原弘(ひろむら)が手がけている。当時のデザイナーにとっては、「美しい日本」を外国に向けてアピールするためのポスター、雑誌、パンフレット、カレンダーなどは思い切った仕事ができる晴れ舞台でもあった。そのため、おそらく「旅の図

書館」の書架にはデザイン的に見ても重要な作品がまだまだたくさん埋もれているに違いない。

「旅の図書館」は観光に関する資料がおそらく国内で最も充実している専門図書館であり、観光研究の拠点として今後もますます重要な役割を果たすことになるだろう。ここで部外者としてやや勝手な願望を言わせてもらうならば、ともすると美術館と図書館のはざまで行き場を失いがちなエフェメラ類——パンフレット、絵はがき、ガイドマップ、カレンダー、ポスターなど観光イメージの記憶をとどめる印刷メディアの集成にも期待したい。



木田 拓也 (きだ たくや)

東京国立近代美術館主任研究員。石川県生まれ。1993年早稲田大学第一文学部卒、文学博士。主な著書として『工藝とナショナリズムの近代 「日本のもの」の創出』(吉川弘文館、2014年)他。これまでに担当した企画展は「大阪万博1970 デザインプロジェクト」(2015年)、「東京オリンピック1964 デザインプロジェクト」(2013年)など多数。



「ようこそ日本へ:1920-30年代のツーリズムとデザイン」展
会場風景およびポスター、東京国立近代美術館、2016年2月

表6 基礎文献 (NDC 分類) の蔵書概要

区分	観光に関する主な蔵書
0類(総記)	図書館、博物館
1類(哲学)	聖地、宗教、社寺、祭礼、遍路など
2類(歴史)	国内・世界の旅の歴史(中世・近世など)、古い紀行書・旅行記、図誌・地理・地名・名所など
3類(社会科学)	歴史・民俗・芸能・伝統行事など国内・海外各国・地域の文化・社会を知るための各種文献
4類(自然科学)	山岳・河川・島・温泉・動植物など
5類(技術・工学)	土木・建築、町並み、都市、料理など
6類(産業)	国際博覧会、交通・運輸(鉄道・航空・船舶など)、宿泊、観光産業社史など
7類(芸術・美術)	世界遺産、文化財、伝統工芸、オリンピック、登山など
8類(言語)	—
9類(文学)	俳句、紀行・エッセイなど

(5) 基礎文献(NDC分類)
 旅の歴史、民俗学、観光・旅行産業関係社史など旅行・観光の研究の参考となる基礎文献資料があります(雑誌の合本を含む)(表6)。



基礎文献の例(民俗学)



旅の歴史や旅行記などのシリーズ本



主要な観光関連学会の学会誌(学術コーナー)

(6) 学術誌・雑誌
 学術誌については、国内の主要な観光・ツーリズム関連学会の学会誌(約20誌)をはじめ、観光に関する学部や学科などを有する国内の主要な大学や研究機関の紀要(約50誌)を収蔵しています。海外学術誌は、海外電子ジャーナル(5誌)を館内で閲覧可能です。
 また雑誌については、研究雑誌、観光関係団体などの情報誌、旅行雑誌、一般情報誌、地域情報誌など約120タイトルを閲覧いただけます。



雑誌架(右)・雑誌バックナンバー(左)

「トラベルジャーナル」「観光とまちづくり」(前誌:「観光」)「月刊ホテル旅館」「レジャー産業資料」「地域開発」「地域づくり」など観光に関わる主要雑誌については、バックナンバーを合本して保存しており、観光関連産業や観光業界の動きや歩みを振り返ることができます。
 (おすすめ かずし)

旅の図書館への期待

―観光研究者の立場から

高崎経済大学地域政策学部 教授 大野 正人

観光研究に関する図書・資料は少なく、観光経済や観光マーケティングに関しては信頼できる統計データが出揃ったのはここ10年くらいであろうか。

このため、社会・経済と観光経営の関係性を研究する筆者の立場から見ると、社会・経済における観光のポジションを把握するのに苦労する。前者については様々なデータがあるが、それが観光にどのような影響を及ぼしたかを把握しようとする、照らし合わせるべき観光統計が無いのである。その結果、過去の観光動向の把握は、様々な業界雑誌等に表れた断片的な記事、場合によっては当時の宣伝広告記事から推し量るといふ気の長い作業となる。あるいは多くの研究者は、過去の事例分析は置

いといて、現在の動向や話題だけを追いかけて研究することとなり、「現在、こんな観光がトレンドですよ」過去の観光は間違っていましたよ」と言うスタンスとなる。しかし、観光は社会の価値観や経済の影響を映し出す鏡であることから、「何故、今までの観光はあのような姿になったのか」という要因の検証をしなければ、将来の社会経済の変化によって観光がどう変化するかを類推することは出来ないはずである。旅の図書館で過去の旅館・ホテルの動向について、雑誌のバックナンバーやホテルの社史などを紐解いてみると、当時の観光経営は間違っていたかのような視点の多くが研究不足によるものであることが理解できる。例えば、大型団体旅館が温泉街の情緒

を失わせたという批判について、その要因を社会・経済動向と照らし合わせてみると、木造旅館の火災発生率が住宅よりも高かったこと、旅行が鉄道からバス、マイカーに変化したのに対して、温泉街の駐車場整備や都市計画が対応できなかったために旅館は温泉街外縁に移転せざるを得なかったこと、そのため温泉街からの距離が遠くなり、バーやスナックを館内に取り込む方向に向かったこと、等々の原因と反省点が見えてくる。このように、旅の図書館は他の図書館では過去の資料として捨て去られているデータが蓄積されていることが強みであろう。もちろん国会

図書館に行けば同様の蓄積があるものの、旅の図書館の一覧性とは比べものにならない。そして商業出版されなかった資料こそ宝の山である。今後の旅の図書館に期待するのは、このような時系列で一貫して閲覧できる資料、特に様々な観光産業のニュースリリースや宣伝パンフレット等のストックである。さらに日本の観光がようやくグローバル化してきた現代では、諸外国の観光資料の蓄積がますます必要となる。アーカイブとしての資料の電子化も大切なことであるが、そのコンテンツの吟味こそが観光研究機関に付属する旅の図書館への期待である。



大野 正人 (おおの まさひと)

高崎経済大学地域政策学部教授。1976年東京大学農学部林学科・森林風致計画研究室卒。同年、交通公社総合開発(株)入社、リポート開発、ホテル旅館のコンサルティングに従事。1991年財団法人日本交通公社入社、観光マーケティング、宿泊産業・観光文化活性化に関する調査研究に従事。2013年より現職。